

平成 25 年度 日野市立図書館の

運営の状況に関する評価書

(平成 24 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 25 年 9 月

日野市立図書館

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	図書館の現状	1
	(1) 施設	1
	(2) 組織・職員	2
	(3) 主な業務	2
4	評価の方法	2
5	評価の対象事業	2
6	評価の結果	3
7	評価表	
	事業No. 1 乳幼児・小中学生サービス	4
	事業No. 2 青少年サービス	5
	事業No. 3 学校支援	6
	事業No. 4 成人・高齢者サービス	7
	事業No. 5 障がい者サービス	8
	事業No. 6 各館での取り組み	9
	事業No. 7 資料の選択・収集	13
	事業No. 8 予約・リクエスト・相互貸借	14
	事業No. 9 レファレンスサービス	15
	事業No. 10 地域・行政資料(市政図書室)	16
参考資料	日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱	17
	図書館協議会委員名簿	18

1 はじめに

平成20年6月に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること。また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成21年3月31日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成21年度から図書館の運営状況に関する評価を開始しました。

2 評価の目的

この評価は、図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深め、連携及び協力を推進し、市民・利用者に信頼される効果的な図書館運営の推進に資することを目的に行います。

この目的遂行のため、図書館は毎年1回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとしています。その、評価結果に基づき図書館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 図書館の現状

(1) 施設 ※平成25年4月現在

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220 m ²	昭和48.4.28	豊田2-49-2	253千冊
移動図書館	1台(20駐車場)	昭和40.9.21	同上	28千冊
高幡図書館	1,358 m ²	昭和55.5.11	三沢4-1-12	88千冊
日野図書館	422 m ²	昭和55.5.18	日野本町7-5-14	51千冊
多摩平図書館	856 m ²	平成16.4.1	多摩平2-9 多摩平の森ふれあい館1階	105千冊
平山図書館	412 m ²	平成20.4.5	平山5-18-2 平山季重ふれあい館1階	50千冊
市政図書室	140 m ²	昭和52.12.1	神明1-12-1 日野市役所1階	41千冊
百草図書館	759 m ²	平成2.11.16	百草204-1 ガーデンビュー石神D2階	68千冊

- (2) 組織・職員 ※平成 25 年 4 月現在
1 課 3 係 (庶務・業務・奉仕)、6 分館
正規職員 40 人 (うち司書 28 人)、
再任用職員 3 人 (うち司書 1 人)
嘱託職員・臨時職員 (週 30 時間換算) 25.5 人

(3) 主な業務

- ・ 図書館資料の収集、整理及び保存
- ・ 個人貸出、団体貸出
- ・ 読書案内及び読書相談
- ・ レファレンス
- ・ 読書会、研究会、講習会、展示会等の主催及び奨励
- ・ 館報その他の読書資料の発行及び頒布
- ・ 図書館資料の図書館間相互貸借
- ・ 市内の学校への資料提供と協力
- ・ 地方行政資料の収集及び提供

4 評価の方法

評価の対象事業について、図書館の活動実績・自己評価を、図書館協議会に報告し、事業の説明会を実施しました。それに対し図書館協議会委員の意見をいただき、評価を行いました。

5 評価の対象事業

「第 2 次日野市立図書館基本計画」の基本方針の下の重点的な取り組みから抽出した、下記 10 事業について評価を行いました。

- 基本方針 すべての市民が利用しやすい図書館をめざします
 - 事業No. 1 【乳幼児・小中学生サービス】
 - 事業No. 2 【青少年サービス】
 - 事業No. 3 【学校支援】
 - 事業No. 4 【成人・高齢者サービス】
 - 事業No. 5 【障がい者サービス】
 - 事業No. 6 【各館での取り組み】
- 基本方針 市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します
 - 事業No. 7 【資料の選択・収集】
 - 事業No. 8 【予約・リクエスト・相互貸借】

○基本方針 市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します
事業No. 9 【レファレンスサービス】

○基本方針 地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に
伝えます
事業No.10 【地域・行政資料（市政図書室）】

6 評価の結果

どの事業も、自己評価は概ね目標に対し成果をあげることができたとしています。一方、図書館協議会の総括的意見は次のとおりです。『平成 24 年度の図書館事業の運営は、財政的、人的な面で、大変厳しい状況の中にあって、概ね高く評価できる内容といえる。

図書資料の貸出し数、図書館利用者数には大きな伸びはみられないが、このような状況下にあって横ばいであることは止むを得ないものとする。

今年度についても引き続き創意工夫を重ね、市民の図書館への期待に応えるべく、努力されることを希望する。

また、図書館活動の PR のための諸活動を積極的に推進して欲しい。

限られた資源の有効活用には図書館活動のすべてに浅く広く配分するのではなく、各事業運営に優先順位づけを行うことが必要である。

本来、図書館、公民館等のいわゆる社会教育施設は、社会教育行政、生涯学習行政の中核的施設である。この観点に立てば、これらの施設が円滑に運営できる予算的、人的措置が厚くとられるべきである。現下の財政状況の中では厳しいことは理解できるところではあるが、可能な限り、予算的措置がとられるよう市政全体の中で対処されることが望まれる。』

平成 24 年度は「第 2 次日野市立図書館基本計画」（計画期間は平成 24 年度から平成 29 年度までの 6 年間）を策定し、今後の図書館のあり方を示しました。それはこれからも基本理念として「暮らしの中に図書館を」を継承し、図書館が市民の読書の楽しみや知識を得るための「拠りどころ」、教育と文化の「依りどころ」、また、気軽に立ち寄ることのできる憩いの場としての「寄りどころ」であることをめざし、施策・事業に取り組んでいくものです。

今回の評価や意見を受けて、次年度以降も取り組みを継続・充実させるとともに、課題の解決や改善に努め、「第 2 次日野市立図書館基本計画」の実現を進めていきます。

各事業における図書館の自己評価及び図書館協議会からいただいた評価・意見は、4 ページ以降の評価表 1～10 のとおりです。

図書館事業評価表 24年度

事業№ 1

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 乳幼児・小中学生サービス	事業開始年度	昭和
			40年度

事業の目的・内容

「図書館基本計画」「日野市子ども読書活動推進計画」に基づきサービス、資料の充実に努める。
【乳幼児サービス】 1. 乳幼児期より本に親しめるよう親子で参加できるおはなし会を開催する。2. 乳幼児が集まる施設での読書推進活動に図書館が支援できる体制をとる。3. 保育園・幼稚園への団体貸出を行う。4. 保護者・保育関係者からの読書に関する相談の受付、講座を開催する。
【小中学生へのサービス】 1. おはなし会を定期的に開催し、読み聞かせやブックトークを通じて子どもたちに直接読書の楽しさを伝える。2. 小学校3年生の学級を訪問し、図書館利用ガイダンスやブックトークを行う。3. 児童関連施設等の読書推進活動に、図書館が支援できる体制をとる。

24年度事業目標

①子どもの読書に関する講座を開催する【重点事業】
 ②児童図書 の 充実、貸出冊数の増加をめざす
 ③小中学校、市内児童関連施設と連携し子ども読書活動をさらに推進する。
 ④夏休みジュニア・スタッフ（中学生仕事体験）を募集する。

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
	児童書の年間受入冊数	冊	7,122	8,101	8,341	103.0
	児童書の蔵書冊数	冊	150,954	153,965	156,729	101.8
	児童書の貸出冊数（個人貸出）	冊	466,541	471,867	479,398	101.6
	配本延べ回数／配本冊数（合計）	回／冊	34／1,700	38／2,540	46／2,780	121.1／109.4
	訪問小学校数（学校数／学級数）	校／学級	15／47	16／48	15／47	93.8／97.9
	おはなし会回数／延べ参加者数（全館）	回／人	87／1,846	89／1,792	95／1,620	106.7／90.4
	出張おはなし会実施回数	回	28	22	25	113.6

①子どもの読書に関する講座開催
 ・「赤ちゃん向けのおもちゃをいっしょに作ろう！絵本を楽しもう！」（乳幼児と保護者対象）参加者…大人35人、乳幼児31人
 ・出張よみかせ入門講座開催回数…2団体へ各1回（小学校・幼稚園のPTA）
 ④ジュニアスタッフ参加者…52人

自己評価意見

①手づくりおもちゃと絵本読み聞かせの講座は保育士の先生と連携したことで、講座の内容に幅をもたせることができた。PTAからの要請で出張読み聞かせ入門講座を行った。いずれも受講者から好評で、手ごたえを感じた。
 ②児童図書の貸出冊数が順調に伸びた。
 ③1985年以来実施している小学校向け図書館ガイダンス（2003年からは3年生を対象）は行事として定着した。学校公開日と重なる事もあり、保護者に対しても図書館利用をアピールできる機会となっている。乳幼児の読書支援として、保育園・幼稚園に加えて今年度より児童館9館への配本を開始、好評を得ている。
 ④ジュニアスタッフは、開館前の時間を利用して書架整理や書架からの予約本探し等をしてもらっているが、中学生になるのを待ちかねて応募してくれる者もいる。

今後の課題

児童を一人で外出させる（図書館に行かせる）家庭の減少や、放課後の部活動・習い事等により、平日のおはなし会に来る児童の数は減少している。「読みたい本をWEBで予約、週末に受取りに行く」といった児童も多い。学校訪問や夏休み学童クラブ訪問等の機会を捉え「身近で頼れる図書館」の存在をさらにアピールし、家族そろっての図書館利用に繋げてゆく。

図書館協議会評価意見

・子どもの読書活動推進のために、図書館は様々な工夫をしてキメ細かく働きかけており、高く評価する。貸出冊数をはじめ、数値が前年を上回るものが多く、努力が表れている。
 ・保護者、保育士、教師などに対する「講座」の実施は子どもと本をつなぐ場と機会を拡充することであり、読書活動推進のすそ野が広がる。大いに実施してほしい。ことに保育士と連携した講座は秀逸であり、双方で協力し推進する連携事業の成果・効果は大きい。
 ・子どもの身近に本を置く「配本」業務は、子どもの読書環境整備であり大事にしてほしい。今後は、実施回数や冊数による成果と併せ、事業の質的な成果も吟味してほしい。
 ・中学生の職業体験やジュニアスタッフに参加した子供たちの感想を文章化し、外向きにアピールすると良い。
 ・小学生、中学生の図書館利用状況が分かると良い。
 ・読み聞かせの楽しさを多くの人に知ってもらうため、講座を開催してほしい。

図書館事業評価表 24年度

事業No 2

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 青少年サービス	事業開始年度	昭和
			40年度

事業の目的・内容	<p>ヤングスタッフ事業（＝公募した青少年たちによる、同世代に向けた読書推進活動。平成21年度開始）</p> <p>目的：「第2次子ども読書活動推進計画 3 青少年の読書活動推進について」に基づき、ヤングスタッフ活動を通じ、スタッフが相互に協力し合い、自らの読書への関心と意欲を向上させるとともに、同世代へ向けた読書環境の発展に資する。</p> <p>内容：1. 図書館内にヤング向け図書展示コーナーを設置、資料の選定、POP、ディスプレイを手掛ける。2. 作家リスト、読書カレンダー等の作成による情報発信。3. ブックパレード（＝ヤングスタッフが薦めたい本を紹介するイベント）による同世代に向けての参加型啓発事業。</p>
----------	--

24年度事業目標	<p>①高幡図書館に設けているヤング向け図書展示コーナーを、中央図書館にも新設し、季節テーマなどテーマに沿った本を並べてコーナーの充実を図り、利用に繋げる。【重点事業】</p> <p>②「青春Bookworm vol.7」「作家リスト」「読書カレンダー」の作成と配布。</p> <p>③ブックパレードの実施</p>
----------	---

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比 (%)
	ヤングスタッフ人数	人	18	19	24	126.3
ヤングスタッフ会議	回	-	11	15	136.4	
青春Bookworm（お薦め本リスト）発行	種類	1（1500部）	3（1500部）	1（500部）	33.3	
作家著作リスト発行	作家	1（1000部）	3（450部）	3（450部）	100.0	
読書カレンダー（月別お薦め本リスト）発行	種類	-	1（500部）	3（300部）	300.0	
ブックパレード開催	回	-	2	1	50.0	
ブックパレード参加者数	人	-	22	5	22.7	
ヤングスタッフ作家別座談会	回	-	3	3	100.0	

事業の成果	<p>①ヤングスタッフによるヤング向け図書展示コーナー（高幡、中央）の運営（本の選定・POP作り・整理等）ができた。</p> <p>②ヤングスタッフによる作家別座談会と、これを基に作家別著作リストを作成した。（はやみねかおる、西尾維新、森見登美彦）</p> <p>②読書カレンダーの作成に力を入れ3種類作成した。</p> <p>③ブックパレードを実施した日は大雨だったこともあり、参加者が少なかった。</p>
-------	--

自己評価意見	<p>○青少年への情報提供、読書環境について概ね目標達成された。</p> <p>①展示コーナーは、スタッフが立ち寄り、チェックを行い、整理等を行っていた。貸出数に繋がっていたかどうかの確実な検証策がないが、展示を行う事で動きの少なかった本が貸し出された。</p> <p>②③新規メンバー（高校一年生）中心の活動となり、年度当初は、本年度の活動内容を決定することに時間を取られ、その結果、作家リスト等の発行やブックパレードの開催が遅れた。</p> <p>③ブックパレード実施後のアンケートでは、ヤングスタッフの活動について、興味を持った等の意見もあったり、新たにヤングスタッフ応募者もあった。</p>
--------	---

今後の課題	<p>1) 毎年募集をかけ新規メンバーが加わる状況での、年度当初の会議の持ち方を検討。</p> <p>2) 展示された本の貸出状況のチェック方法の検討。</p> <p>3) ブックパレード、座談会等の参加型のイベント実施。</p> <p>4) ヤングスタッフの活動の周知と、読書の楽しみ、同世代の本好き仲間の拡大。</p>
-------	---

図書館協議会評価意見	<p>・「ヤングアダルト（YA）サービス」（＝児童と成人の中間にあって配慮が必要とされる青少年層を対象とした読書活動推進サービスで、主に図書館界や出版界で呼称される。）は、日本においては歴史が浅く、YAコーナーを設置しているだけという図書館も多い。その中で、日野市は青少年自身を活用した活動プログラムを実施しており、独創的で大いに評価できる。ヤングスタッフをサポートする職員のカも大きい。</p> <p>・刊行物の作成・イベントなど、それなりに成果をあげており、今後の有効活用ができるよう期待する。</p> <p>・ブックパレードの開催日は大雨のせいもあり参加者が少ないが、継続していくことが成果につながる。</p> <p>・今後も周知に努めてより多くの青少年に発信し、担当者のノー・ハウを蓄積し、事業の展開を図ってほしい。</p> <p>・今は「読書」プログラムに特化しているが、「調べる」プログラムも開発するとよい。図書館の基本的機能である「調べる」ことを理解できるようになるのはもちろん、YAの視野を広げ、「読書」プログラムの進化拡大につながり相乗効果をあげるだろう。</p> <p>・図書館として、児童サービスと並ぶ「ヤングアダルトサービス」を位置づけ、魅力ある資料構成や居場所を作るなど工夫をして、広く青少年に向けてサービスを展開してほしい。</p>
------------	--

図書館事業評価表 24年度

事業No 3

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 学校支援	事業開始年度	平成
			18年度

事業の目的・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小中学校での調べ学習・読書指導用図書を要望に応じて用意、搬送する。学年単位の各々の課題について資料面で応援する。 2. 職業体験学習の児童生徒を受入れる。図書の貸出し業務や図書整理を実際に体験する事で市民と交流し、地域の図書館の担う役割を知る機会とする。 3. 教諭が行う学校図書館用図書の選書に際しての情報提供をする。 4. 教諭と図書館職員との情報交換・交流の場を設ける。
----------	--

24年度の事業目標	<ol style="list-style-type: none"> ①必要な資料を授業の進行に沿って提供する。【重点事業】 ②相談内容を記録し、選書に反映させる。
-----------	--

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
	相談件数	件	229	188	167	88.8
	搬送回数	回	259	221	196	88.7
	冊数	冊	10,396	10,038	8,793	87.6

事業の成果	<p>①小中学校の先生から依頼のあったテーマに沿って資料を集め、週1回搬送車で学校へ届け、調べ学習を資料面で支援した。</p> <p>*中高生の職業体験受け入れ →のべ24校60人39日 *司書教諭連絡会との連携 →図書館活動の紹介、学校図書館での図書購入のための図書展示会開催 *学校図書館貸出システムによる学校図書館の支援継続(市立図書館システムの更新時に、学校図書館システムのパッケージも導入し、貸出・返却・予約、図書管理、利用者管理等業務を機械化。システムの管理を市立図書館が行っている。)</p>
-------	---

自己評価意見	<p>①学校図書館で対応しきれない資料を搬送し、調べ学習を支援している。先生によっては繰り返し依頼があり、大いに活用してもらっている。</p> <p>②調べ学習に役立つ図書を意識的に購入することで、依頼されるテーマに応えられるように努めた。</p> <p>*テーマによっては、依頼される時期が数校から同じ内容で依頼されることが何度もあり、1校あたりに貸し出せる資料数が少なくなりました。</p>
--------	---

今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平成25年度に実施される「学校図書館システムの更新」に向け、システム更新の説明会や連絡調整会を実施するなどして、学校図書館との連携を更に進める。 2) 貸出冊数が減少した「学校搬送業務」について、新しく着任された教諭へのPR等に力をそそぐ。 3) 数校から依頼されるテーマが重複した場合にどうするか。関連する資料の蔵書数を増やすのか検討が必要。 4) 各学期の始まりや休み中は依頼も少ないが、各学期中はほぼ毎週5～6校から依頼があり、多い時には8校分の搬送があった。これ以上増えると増便や職員による搬送も視野に入れる必要がある。
-------	--

図書館協議会評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送量や従事時間に制限がある中、健闘している。 ・前年度に比べ減少している項目が多い。 ・今後も校長会等で図書館の積極姿勢を大いにアピールし、小中学校教員への働きかけを行ってほしい。 ・図書委員と図書館員と教員との懇談会ができるとうい。 ・学校からの要望に応えることが先決ではあるが、学校図書館が活性化するような支援を考えていく必要がある。 ・学校課と連携しながら、司書教諭との連携を充実させ、学校図書館協力員の研修などもできるとよい。 ・『第2次日野市子ども読書活動推進計画』にある「学校図書館支援センター的な役割」を果たすための体制のさらなる充実を努めてほしい。 ・学級文庫について、検討を進めてほしい。読み物をバックにして配本する案に対しては参加する人材を広く求める必要がある。
------------	--

図書館事業評価表 24年度

事業No 4

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします	事業開始年度	昭和
	成人・高齢者サービス		40年度

事業の目的・内容	1. 誰もが利用しやすい身近な図書館… 移動図書館「ひまわり号」によるサービスの充実、交通機関の案内 2. 誰もが入りやすい「憩いの場」としての図書館… 滞在性を高めるために机や椅子の配置等の工夫と環境整備、子ども連れの方への配慮 3. 多様な利用者へのサービス… 高齢者へのサービス、外国人へのサービス
----------	--

24年度事業目標	①多様で興味・関心を寄せるテーマ図書展示の充実を図る。(重点事業) ②資料(図書、雑誌、CD・ビデオ等)の充実を図り、資料の貸出や参考調査・資料相談に応える。 ③市民が利用しやすい形で商用データベースの活用を進める。 ④子どもや高齢者・外国人も利用しやすく、快適で滞在性の高い環境整備を進める。
----------	---

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
	年間受入冊数(児童書を除く)	冊	27,957	29,206	27,301	93.5
	蔵書数(児童書を除く)	冊	596,478	610,901	621,366	101.7
	CD・ビデオ等保有数	点	4,482	4,916	5,191	105.6
	図書・雑誌貸出(個人貸出、児童書を除く)	冊	1,239,352	1,232,464	1,221,158	99.1
	CD・ビデオ等貸出(個人貸出)	冊	17,510	17,151	17,406	101.5
	館報ひろば 部/回		16800/12	16280/12	15600/12	95.8

① 図書展示テーマ…【食育】【子育て支援】【自殺防止】【がん対策】【天体ショー】【イギリス】【大掃除】【民間信仰】【図書館に行こう】【ひろば特集イタダキマス】【涼くなる本】【新しい年なにか始めたいこと】【いろいろな塔】【山歩き・散歩】【神社・仏閣】【春を探しに】【小島善太郎画伯】
② CDを23年6月から百草図書館にも置くようにしたので、CDの保有数が増加した。
③ 商用データベース数…6点
 * 高齢者向けパソコン講座…60歳以上の市民を対象に図書館ホームページを検索し、蔵書の予約方法や情報源の活用方法を学ぶ。実践女子大学図書館及び実践女子短期大学図書館との共催事業。参加者19人。

① テーマ図書展示のうち、食育は食育計画、子育て支援は子育てプランを生かし、継続することで協力した。自殺防止は「いのちを守る自殺対策緊急プラン」により「自殺対策強化月間」となる3月に自殺防止展示を3か所で開催した。子育て支援や食育と同様に庁内の声を受けて、がん対策も3か所でリレー展示を実施した。市民の関心を多くひきつけ、貸し出しも多かった。
②④ 洋書の収集や環境整備などは引き続き検討し、見直し及び改善をすすめる。
③ 公開の環境が整わず、活用にはいたらなかった。
④ 快適で滞在性の高い環境整備の検討がまだ不十分のため、引き続き検討し改善を進める。
 * 高齢者向けパソコン講座は初心者向けとして実施した。図書館ホームページは選ぶ項目が多いため、混乱することが多い。いろいろな検索や本の予約方法を実際に習うことで、参加者は興味が広がり調べる醍醐味が味わえたと思う。満足していただけた感想を聞いたが、実際にはアンケートを実施していないのが残念。
 * 館報ひろばに図書館員のおすすめの本のコラムを掲載しているが、好評なので継続する。また、もっと広く知ってもらえるように周知する。

今後の課題
 1) 子育て世代と高齢者に向けた資料を更新し充実させる。
 2) 日野市のISO自己宣言に伴い、環境に関する資料の活用を促進させるための検討を進める。
 3) 図書館への交通案内や館内表示、滞在性向上の空間の確保に向けての検討・準備を進める。
 4) 図書館サービスを周知するために、図書館HPや市役所HP、地元メディアを通して広報活動を広く行う。

図書館協議会評価意見
 ・テーマ図書展示が活発であることを高く評価する。様々な年代層のことを考えた多様なテーマ設定がよい。また、POP表示などがあると読書意欲がかきたたえられてより良いと思う。
 ・日常生活に直結したテーマ、時事的なテーマなど市民がふと疑問に思うテーマを大いに取り上げるなどして、図書館が暮らしや仕事に役立つところであることを印象付けるようなものもほしい。
 ・庁内の関係部局とつながりのあるテーマ展示は今後もぜひ継続してほしい。
 ・洋書を収集する際、方針を決めた方がよい。
 ・商用データベースが活用されるよう、もっとアピールする必要がある。
 ・高齢者パソコン講座を開いたのはとてもよい。「情報格差」をなくす取り組みだと思う。こういった利用者参加型のイベントをもっと実施できるとよい。また、ヤングスタッフ事業のような感じで、「成人or高齢者」プログラムを組めるとよい。

図書館事業評価表 24年度

事業№ 5

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 障がい者サービス	事業開始年度	昭和40年度
------	---	--------	--------

事業の目的・内容

1. 新しい技術・機器などを取り入れ、効率的に資料・情報を利用できるようにする。
2. 既存施設・設備のバリアフリー化を図る。
3. 点字授業やパソコン講習をさらに充実させる。
4. 市政情報の点字版・録音版化の促進。
5. 病院・介護施設とも連携を図り、図書館サービスを推進する。

24年度事業目標

- ①点字録音図書オンラインデータベースの活用を進め、サービスの効率化を図る。(重点事業)
- ②録音図書の保存・活用のため、引き続きテープ資料のDAISY化を進める。(重点事業) (DAISY= Digital Accessible Information Systemの略で「アクセシブルな情報システム」と訳されている。このシステムで制作した録音図書を主にCD-ROMによって貸し出す。従来のカセットテープに代わるもの。)
- ③障害者サービス資料の電算化を促進し、事業の効率性を向上させる。
- ④障害者サービス蔵書目録の整理・作成を行ない、利用者へより有効な情報提供に努める。

項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
登録者数 個人/団体	人/団体	162/7	160/7	154/7	96.2/100
資料変換者数 音訳者/点訳者	人	38/12	36/12	31/12	86.1/100
総貸出タイトル数(相互貸借分含む)	タイトル	1878	3934	3450	87.7
対面朗読 件数/延べ時間数	件/時間	169/496.5	161/473	178/512	110.6/8.2
点字図書作成枚数	枚	5857	9370	7617	81.3
録音図書作成タイトル数	タイトル	53	44	27	61.4
パソコン指導 人/延べ時間数	人/時間	7/299	7/277	10/326	142.9/117.7
職員による宅配 利用者数	人	21	13	14	107.7
宅配回数/宅配点数	回/タイトル	322/1392	227/1550	130/845	57.3/54.5
ボランティアによる宅配 利用者数	人	2	4	5	125
宅配回数/宅配点数	回/タイトル	15/73	18/101	38/166	211.1/164.4
実働ボランティア数(登録ボランティア数)	人	1(1)	7(18)	3(18)	42.9

事業の成果

- ①相互貸借による借用件数は1224件、内オンラインデータベース(サピエ)利用件数は1188件(97%)。23年度は899件、今年度は3.2割の利用増。
- ②「ごみカレンダー」「eco」(ごみゼロ推進課発行)のDAISY(デージー)版製作
 - * 点字授業(1クラス2時間)… 6校 19クラス
 - * 音訳者講習会…登録音訳者を対象に、全4回の校正講習会を実施。(受講者19人)

自己評価意見

- ①サピエのオンラインリクエストを利用して、各々の利用者のリクエストに応じた幅広い資料の提供を行った。このオンラインシステムの活用は、より迅速な資料提供へとつながっている。
- ②図書館資料だけでなく、他部署と連携して、「ごみカレンダー」「eco」等のDAISY版を製作し、広く市民の利便性を図ることができた。
- ③新たに作成した資料はすぐに資料情報を電算化し、より早く利用者に提供することができた。
- ④既存資料の資料情報の電算化や、蔵書目録の整理・作成については、職員体制の変更や日々のリクエスト処理等に追われ、十分な時間が取れなかったため、計画通りに進めることができなかった。
 - * 職員による宅配の実績がかなり減少してしまった。要因として、利用者の要望が例年に比べ少なかったということ、要望があってもすぐに応えられる体制をとれなかったことがある。
 - * ボランティアによる宅配は大幅な利用増になっているが特定の館のみの実績だった。積極的なPRを行ない全館に広めていきたい。

今後の課題

- 1) 職員による宅配サービスを効率的に行なうための業務改善。
- 2) ボランティアによる宅配サービスの見直しと今後のサービス検討を行なうための組織作り。
- 3) 障害のある児童への障害者サービスのPR。
- 4) 新規採用音訳者の音訳技術向上とDAISY講習の推進。
- 5) 「日野市立図書館点訳図書・録音図書蔵書目録」を整備して利用の拡大をはかる。

図書館協議会評価意見

- ・ 厳しい状況の中での努力は評価できる。
- ・ 対面朗読をたくさんこなしている。
- ・ 関係部局との連携も必要。
- ・ 「ごみカレンダー」等のDAISY版を製作したことは利用者の利便性の向上に重要で評価できる。
- ・ 「テーマ展示」などで、利用者一般にも障害者サービスに対する理解を図ることも必要。
- ・ 要望にすぐ応えられるための体制づくりが必要。
- ・ 職員による宅配サービスはもっとボランティアに頼っているのではないか。
- ・ ボランティアによる宅配は、募集方法を工夫したり、ポスター掲示などもっとPRが必要。
- ・ 高齢等により体が不自由な人にとって、宅配サービスはなくてはならないものである。今後も引き続き実施してほしい。

取組事業	すべての市民が利用しやすい図書館をめざします 各館での取り組み	事業開始年度	昭和 40年度
1 中央図書館			
24年度の事業目標	① 乳児向けおはなし会の開催時間を午前中に変更し、参加しやすくする。 ② 年度を通して時宜に適したテーマ図書展示を開催し、蔵書の紹介と活用を図る。 ③ 近隣保育園・幼稚園を対象に「招待おはなし会」を試行実施する。 ④ 児童の保護者を対象に「児童向け図書の紹介」を月1回実施する。		
事業の成果	① 乳児向けおはなし会、参加者106人、前年度の2.1倍となった（前年度は49人）。最多で16組の親子が集まった回もあった。 ② がん対策に関する情報提供、天体やロンドンオリンピック等、タイムリーな話題に関する図書展示を行った。 ③ 近隣保育園・幼稚園に対し「招待おはなし会」を試行。延べ4園82名の園児の参加があった。（来年度本格実施を目指す。） ④ 小学生以上の児童の保護者を対象に「児童向け図書の紹介」時間を新設した。これにより、家庭での読書に参考となる本の紹介ができるようになった。 *過去に人気があった本のコーナーを、「2010年に話題になった本を集めてみました」の見出しでリニューアルし、より魅力的にした。 *書庫の整理を進めた。 *開架のよく利用される小説や思想のシリーズの買い替えを行った。		
自己評価意見	① 乳児向けおはなし会の参加者増を図るため、開催時間を午前に変更し効果を挙げた。乳幼児期からの図書館利用が将来の図書館利用者増へとつながる。子育て支援の観点からも更にこの世代への取り組みが重要になると思われる。 ② テーマ展示コーナーは、展示された図書を手に取る利用者も多く、貸出の増加にも繋がっている。 ③ 各園との連携も深まり、また、平日来館できない保護者に向けた休日の利用PRともなり、成果を上げた。 ④ 「児童向け図書の紹介」時間を設け、好評を得た。今後、家庭での読書のきっかけとしてとらえてもらえるよう、広報手段を再考する。更に関係機関に広報し、参加を促進する。		
今後の課題	1) 蔵書のPRや情報発信、提供方法の改善、施設・設備の改良（滞在性の向上）。 2) 貸出冊数、利用者数ともに漸減傾向にある。蔵書の充実を図るだけでなく、それをいかに活用してもらうかの方策を考え、実行することが急務。		
2 高幡図書館			
24年度の事業目標	① 空調設備を更新し、利用環境の改善に努める。 ② 書庫を整理・拡充し、書庫機能を一層充実させる。 ③ 市民の暮らしや文化活動に必要な情報の収集・提供を行う。		
事業の成果	① 空調設備を3ヶ年計画で更新。その初年度となった今年は「二重効用吸収冷温水機」を設置した。 ② 分散保存されていた読売新聞縮刷版35年分をすべて高幡図書館書庫に収集。 ③ リーフレット・チラシが以前の3倍収集できる大型ラックを設置。		
自己評価意見	① 新たな空調機の設置により、CO2排出の大幅な削減を実現した。同時に快適な空調環境になった。 ② 新聞縮刷版は、タイトル別の分担収集・保存を実現したことで、利便性を高めた。 ③ 大型ラックの設置で、求める情報が速やかに取り出せるようになった。		
今後の課題	① 空調設備の更新工事を、通常開館に支障なく進める。 ② 高幡図書館の図書予約件数は館別でトップクラスだが、市民の要望に応えられるよう、バランスの良い蔵書構成を念頭においた選書を行う。		

3 日野図書館

24年度の事業目標	①地域住民と共同で取り組んでいる日野宿発見隊事業の充実（プレ国体事業及び新選組まつりへの協力を含む） ②近隣小学校との連携（日野の昔調べ授業等への支援）
事業の成果	①プレ国体に向けての日野駅周辺見どころマップ制作協力及び「日野駅周辺見どころツアー-地蔵・石仏コース-」開催協力。新選組まつりに対して独自の「うおーくらりー（スタンプラリー） in 日野宿」を実施。 ②第七小学校3年生への出前授業（半世紀前の写真や映像をもとに、日野の昔の様子を解説）
自己評価意見	①日野宿発見隊事業は地域住民の協力を得て実施できた。 ②これまでに収集した写真や映像データを使い、子どもたちにとってもわかりやすい解説ができた。 *平成17年4月にリニューアル・オープンした後、毎年増加していた貸出冊数が今年度初めて減少に転じた。特に乳幼児の利用の減少が際立つ。サービス圏内にある大型集合住宅の乳幼児が減少したことも一因だと思われる。
今後の課題	平成25年度は市制50周年事業や国体の開催に向け、日野宿発見隊として協力事業を展開する予定である。こうした取り組みと並行し子どもへのサービスの充実を図りたい。

4 多摩平図書館

24年度の事業目標	①利用者にとって望ましい図書館内の滞在環境づくりに十分配慮する。 ②年間を通して、その時々季節等に合ったテーマ展示を行う。
事業の成果	①1日4～5回の館内の巡回を実施した。 ②ミニ展示を含め7回のテーマ展示を行った。 テーマ：【ひろば特集 イタダキマス】【涼くなる本集めてみました】【災害に備える（ミニ展示）】【がんと向き合いがんと生きる】【子育て支援】【新しい年 何か始めたいことありますか】【自殺防止月間（ミニ展示）】
自己評価意見	①館内の定期的巡回を実施し、室温や利用者の滞在環境の把握に努めた。しかし、子どもも大人も快適に過ごせるような環境づくりがまだ十分とはいえない。 ②ミニ展示を含め7回のテーマ展示を行って各分野の資料を紹介し、利用者にとって日頃は目に触れない資料の貸出につながった。
今後の課題	図書館を多くの利用者に快適に利用していただくため、今後も館内環境を十分に把握して対処していく。

5 平山図書館

24年度の事業目標	①新刊図書展示棚が空かないよう、定期的に書架全体から新刊図書を抜き出し展示する。その時、内容を紹介するPOP表示も行う。 ②図書館に隣接する交流広場の空きスペースにポスター表示やパンフレット置き台を設置し、情報公開に努める。
事業の成果	①新刊図書棚に定期的に新刊図書を展示した。 ②交流広場の空きスペースにポスター表示板やパンフレット置き台を設置した。
自己評価意見	①新刊図書棚に置いてあった配布用チラシ・パンフレットを交流広場に移したため、より多くの新刊図書を定期的に展示できるようになった。来館者は新刊の棚を眺める方が多く、貸し出しの増加に繋がった。 ・POP表示までは手が回らなかった。 ②ポスター10枚分の展示板を購入し、以前より長い期間ポスター掲示が出来るようになり、より多くの人に情報を提供することができた。（以前は平均2週間で張り替えていた。）
今後の課題	・新刊図書を増やすため図書購入費を増加をさせたい。

6 百草図書館

24年度
の事業
目標

- ①視聴覚資料（CD）の充実
- ②事務室内書庫の整理

事業の
成果

- ①視聴覚資料（CD）を141枚受け入れた。
 - ②書庫の資料の点検を行なった。
- *おはなし会を月1回開催した。（全12回）

自己評価
意見

- ①視聴覚資料（CD）は落語、クラシックを中心によく利用されていた。
 - ②点検を行った部分の書庫の資料がいっぱいになってきた。近いうちに整理が必要である。
- *おはなし会に参加者が少ない。特に小学生以上の部で顕著である。

今後の
課題

- 1) おはなし会については、PRを積極的に行い、参加者を増やしていきたい。
- 2) CDは、今後は利用の多いジャンルや要望があるジャンルを中心に充実させていきたい。

7 移動図書館

24年度
の事業
目標

- ①団体貸出（保育園、幼稚園、学童クラブ、病院等の施設）に行き、幼児、児童に対し貸出を行う。
- ②移動図書館PRのため、市が企画するイベント等に参加し利用を促す。
- ③移動図書館利用者のニーズにあった、書架構成の構築。

事業の
成果

- ①保育園、幼稚園、学童クラブ、病院等に年3回づつ（病院は年11回）巡回に行き、幼児や児童に貸出を行った。
 - ②新選組まつりに1日、産業まつりに2日参加し、合わせて図書185冊を貸し出した。また、ひまわり号の模型工作を子どもたちに教えながらひまわり号のアピールを行った。
 - ③毎朝の書架整理は、その日に行く巡回場所の利用動向を考えながら書架整理を行なった。
- *ひまわり号書庫の書架整理の徹底。出版年により本の置き場所を分けるなど、配置変換を行なった。

自己評価
意見

- ①保育園、幼稚園、学童クラブに巡回に行くことにより、各園や小学校とのつながりや連携を図ることができた。この団体貸出はどこの施設からも大変好評で、いつも巡回を楽しみに待ってもらっていた。また、通常の市民に対する巡回時には来れない児童や生徒に対して、ひまわり号の存在をPRする絶好の機会ともなった。
 - ②各イベントへの参加は移動図書館のよいPRとなった。
 - ③巡回場所を考慮し書架整理を行なったが、貸出冊数を伸ばすまでには至らなかった。
- *書庫の書架整理の徹底と配置変換により、ひまわり号に載せる本が選択しやすくなり、書架整理を効率的に行うことができた。

今後の
課題

- 1) イベント参加にあたっては、事前のPRをいかに積極的に展開していくかが、今後の課題である。
- 2) ひまわり号には限られた冊数しか載せられないなか、利用者のニーズを把握して、魅力のある書架構成を実現していく。

図書館協議会
評価意見

《全館》

- ・各館とも、苦しい状況の中でそれぞれが努力し、工夫をこらして成果をあげている。
- ・おはなし会は、「ひのっち」のイベントとして企画してもらうなど、各小学校と連携を図り、広く実施されるとよい。
- ・各館ごと、地域の特性に特化した事業が展開されるとよい。日野図書館での発見隊活動であったり、各館ごとに特定分野に特化した資料収集を行い、それぞれに特色を持たせるなど。市民にとっては図書館が距離的に近いという利便性だけでなく、市内全域を見渡すと多彩な図書館をもつことになる。
- ・展示は、本に興味がわきやすくなるようなPOP表示があるとよい。

《各館》

- ・中央図書館の外回りの（駐車場など）整備がされて良かったと思う。また、各館とも耐震診断、施設修繕などはしっかりと行なってほしい。
- ・中央図書館の「招待おはなし会」は普段図書館に来られない親に対して効率的にPRできるものだと思う。
- ・中央図書館のレファレンス機能をもっと積極的にアピールしてよい。
- ・高幡図書館は図書の配架や表示がじつに見やすい。また、タイムリーな話題に関する図書展示、ヤング向け図書展示に工夫がこらされていて思わず手にとって見たくなる。
- ・移動図書館は日野市ならではのもの。移動図書館は、図書館の宣伝媒体であることを踏まえ、ますます発展できるように今後とも事業活動に努めて欲しい
- ・移動図書館での、利用動向を考えながらの書架整理は重要な工夫である。

【参考資料】

●館別利用統計

	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比 (%)
中央	貸出冊数	冊	338,307	327,173	324,744	99.3
	利用者数	人	89,318	85,070	84,081	98.8
	新規登録者数	人	1,231	1,065	1,072	100.7
高幡	貸出冊数	冊	332,116	330,007	332,606	100.8
	利用者数	人	102,097	100,346	99,856	99.5
	新規登録者数	人	1,655	1,477	1,467	99.3
日野	貸出冊数	冊	247,631	254,828	247,814	97.2
	利用者数	人	66,452	66,161	64,586	97.6
	新規登録者数	人	1,131	1,070	1,012	94.6
多摩平	貸出冊数	冊	475,976	480,119	481,831	100.4
	利用者数	人	125,119	125,147	125,017	99.9
	新規登録者数	人	1,726	1,622	1,484	91.5
平山	貸出冊数	冊	150,970	150,310	154,874	103.0
	利用者数	人	48,476	47,679	48,737	102.2
	新規登録者数	人	790	692	683	98.7
百草	貸出冊数	冊	138,983	137,262	135,695	98.9
	利用者数	人	40,441	40,081	39,758	99.2
	新規登録者数	人	620	547	515	94.1
市政	貸出冊数	冊	16,192	18,775	17,704	94.3
	利用者数	人	6,327	6,862	6,546	95.4
	新規登録者数	人	60	44	68	154.5
移動	貸出冊数	冊	23,228	23,008	22,694	98.6
	利用者数	人	4,205	4,072	3,888	95.5
	新規登録者数	人	112	107	67	62.6
合計	貸出冊数	冊	1,723,403	1,721,482	1,717,962	99.8
	利用者数	人	482,435	475,418	472,469	99.4
	新規登録者数	人	7,325	6,624	6,368	96.1

図書館事業評価表 24年度

事業№ 7

取組事業	市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します	事業開始年度	昭和
	資料の選択・収集		40年度

事業の目的・内容	目的：市民の現在及び将来の利用に応え、図書館として揃えるべき資料を効果的かつ効率的に収集し、提供する。
	内容： 1. 「図書館基本計画」に基づき、下記のとおり、適切な資料の選択・収集に努める。 ・市民の地域活動・生活・仕事・余暇の充実に役立つ資料の収集 ・各分野の基本的資料から入門者向けや、必要に応じて実務者向け専門書の収集 2. 予約の待ち時間短縮のため、予約の多い図書の寄贈を呼び掛ける。

24年度 の事業 目標	①図書を迅速にかつ高い割引率で確保するため、資料購入契約方法の改善を図る。（重点事業） ②中央図書館及び各分館蔵書担当による本の選択会議を定期的で開催し、適切な資料選択・収集を行う。 ③購入雑誌の見直しを行う。 ④視聴覚資料（CD）の選択・収集を行う。
-------------------	--

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比（%）
	●資料費					
	図書	円	40,825,841	44,340,791	43,699,970	98.6
	雑誌	円	8,136,420	8,105,754	7,712,328	95.1
	新聞(縮刷版・政党紙を含む)	円	2,756,628	2,894,753	2,754,808	95.2
	CD	円	358,599	347,340	299,982	86.4
●蔵書数						
	図書受入数 * ()内は購入数	冊	35079 (28762)	37307 (29238)	35642 (30516)	95.5 (104.4)
	購入雑誌タイトル数	誌	511	508	506	99.6
	購読新聞紙数	紙	30	29	29	100.0
	CD受入数 * ()内は購入数	枚	269 (43)	303 (125)	272 (137)	89.6 (109.6)

①図書の価格割引率が高くなったことで、資料費の減少を補い、購入点数の増加につながった。
また、図書の納入期間が短縮された。
*良く利用されている、成人書・児童書の買い替えを進めた。
*寄贈図書の呼び掛けを行った。寄贈図書数 4918冊(行政刊行物を含む)

自己評価意見	①図書購入業者の入札を行ったことにより、図書の価格割引率が高くなり、購入冊数は増加したが、業者変更による事務に時間がとられたため、全体の受入冊数は減少した。 ②毎週、各館での選書の結果を持ち寄る選択会議を開き、購入する館や複本数の調整を行った。また、購入する図書について情報を共有した。 ③購入雑誌の選定にあたり、市民のニーズを参考に、ジャンルのバランスや複本数に偏りがないように努めた。 ④CDは、今年度は特に利用の多い落語、クラシックを中心に購入し、充実を図った。
--------	---

今後の課題	1) 25年度に予定されている電算システム更新に際し、図書の発注・受入や書誌データの移行に支障が出ないよう準備する。 2) 資料費が減少する中、市民の要求に応えられるよう、資料の選択により精査が必要である。
-------	--

図書館協議会評価意見	・図書購入費減少の中で、資料収集に努力していることが伺われる。とくに資料購入契約方法の改善を図り、コスト削減とスピード調達を実現したことは大いに評価できる。 ・図書館資料は図書館の命であり、その選択・収集は基本的で重要な業務である。この評価表で選択基準、選択ツールといった選択の内容や新刊図書、買い替え図書の内訳、分野ごとの購入比率等もわかるとよい。 ・資料費の減少は図書館本来の役割ともかかわる重要な問題である。キメ細かい努力にも限界があるので、基本的には予算の増額が必要である。 ・寄贈図書の呼びかけは、とても大切である。引き続き寄贈図書の活用を行ってほしい。 ・雑誌の種類が多いということが日野市立図書館のいいところだと思う。 ・マンガの収集についても検討してほしい。 ・今後も「市民の暮らしに役立つのか」を主眼とした、CDの購入をしてほしい。
------------	---

図書館事業評価表 24年度

事業№ 8

取組事業	市民が求める本や資料・情報を収集・保存・提供します		事業開始年度	昭和		
	予約・リクエスト・相互貸借			40年度		
事業の目的・内容	1. 利用者が求める資料を迅速に提供する。 2. 日野市が所蔵していない資料について、他市・他区・都立・国会等図書館・他機関（大学など）から借用して提供する。 3. 他図書館・他機関から資料の借用依頼があった時は、当市資料を貸し出す。					
24年度事業目標	①予約のある資料は円滑に回転させ、予約が集中する資料は追加購入を計画的に行なう。（重点事業） ②市民にとって予約（リクエスト）サービスがより利用しやすいようPRしてゆく。 ③日野市が所蔵していない資料は、相互貸借により他図書館・他機関から迅速に入手して提供する。 ④他図書館・他機関から資料の借用依頼があった時は速やかに当市資料を貸し出す。					
事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比（%）
	予約・リクエスト総数	冊	453,520	460,444	466,179	101.2
	所蔵・購入による提供	冊	444,474	451,715	456,765	101.1
	借用による提供（相互貸借）	冊	9,046	8,729	9,414	107.8
	【相互貸借内訳（借用） 都立	冊	4,956	4,417	4,401	99.6
	多摩地域	冊	3,632	3,767	4,335	115.0
	23区	冊	397	437	567	129.7
	国会・県立	冊	61	108	111	102.8
	（貸出）多摩地域	冊	8,436	8,241	8,998	109.2
	23区	冊	735	716	755	105.4
県立ほか	冊	20	27	32	118.5	
自己評価意見	①平成25年4月1日実施を目指して予約受付件数を50件から30件へ変更する検討を行なった。 ・予約がある本の返却期限を超過した利用者に対し、督促を毎週行い、返却を促した。 ・予約が集中した本について、追加の購入を毎週の本の選択会議に図った。 ②館報ひろばで人気のある本の紹介や、リクエスト方法などを掲載するなどしてPRをした。 ③相互貸借を有効に活用し、利用者へより迅速な資料提供を行なった。 ④県立図書館などとの相互貸借は、ノウハウが定着してきたのでスムーズに借用・貸出を行なっている。					
今後の課題	1) 25年度に予定している電算システムの更新時に、利用者にとってより使いやすい予約システムを構築する。 2) 予約の方法について、新しく利用登録した方やWEBからの予約をしたことがない方などに引き続きPRしてゆく。 3) 相互貸借資料に対する郵送料の受益者負担を調査、研究する。					
図書館協議会評価意見	・資料の提供まで迅速な対応ができていると思う。 ・目標（前年度比100%以上）数値をほぼクリアしている。 ・事業の成果を見ると、数値も年々増加している。この事業は今後ますます拡大していくと思われる。 ・事業の成果では「所蔵・購入」が一緒になっているが、リクエストを受けた時点での所蔵・未所蔵、リクエストによって購入した本は何冊あったのかを知りたい。 ・予約サービスによって「市民の図書館への信頼を増す」「学習権の保障」といった基本に立ち返り、予約サービスのあり方を更に検討する必要がある。 ・予約に一定の制限を加え、特定の個人への便宜供与にならないようにすべきである。 ・人気のある本の待機日数がかかりすぎる。リクエスト冊数の制限、新刊書の貸出期間の短縮など、利用のしやすさにも留意しながら検討する必要がある。					

図書館事業評価表 24年度

事業№ 9

取組事業	市民と資料・情報とを結びつけ、市民の暮らしを支援します レファレンスサービス					事業開始年度	昭和 40年度																																																
事業の目的・内容	<p>目的：市民と市民が必要とする資料・情報を結びつけ、市民の暮らしや調査・研究を支援する</p> <p>内容：1. 市民の疑問や暮らしの課題に対して、図書館資料に基づいて応える。 2. 市民の疑問や暮らしの課題を解決するために必要な資料を揃える。 3. 市民が必要な資料を探しやすいように、わかりやすい配架・表示に努める。 4. 市民の関心の高いテーマを選び、資料・情報コーナーを設置する。 5. 市民に必要なサービスを行える職員を育成するために研修を充実させる。 6. 市民に有用な情報を積極的に発信する。（パスファインダーやレファレンス事例集などの作成）</p>																																																						
24年度事業目標	<p>①資料の充実（重点事業） ②職員研修の実施（重点事業） ③しごと情報コーナーの充実 ④図書館ホームページの「日野市についてよくある質問」（レファレンス事例集）の更新</p>																																																						
事業の成果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>前年度比（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レファレンス受付件数(全館)</td> <td>件</td> <td>4,335</td> <td>3,585</td> <td>3,211</td> <td>89.6</td> </tr> <tr> <td>レファレンス資料の受入冊数(全館)</td> <td>冊</td> <td>662</td> <td>576</td> <td>559</td> <td>97.0</td> </tr> <tr> <td>レファレンス資料の蔵書冊数(全館)</td> <td>冊</td> <td>22,384</td> <td>23,252</td> <td>23,990</td> <td>103.2</td> </tr> <tr> <td>公開している商用データベースの点数</td> <td>点</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>インターネット閲覧端末の利用回数(全館)</td> <td>回</td> <td>18,655</td> <td>16,525</td> <td>13,242</td> <td>80.1</td> </tr> <tr> <td>パソコン電源席の利用回数(全館)</td> <td>回</td> <td>1,126</td> <td>1,187</td> <td>1,423</td> <td>119.9</td> </tr> <tr> <td>紹介状の発行数(全館)</td> <td>回</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>116.7</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比（%）	レファレンス受付件数(全館)	件	4,335	3,585	3,211	89.6	レファレンス資料の受入冊数(全館)	冊	662	576	559	97.0	レファレンス資料の蔵書冊数(全館)	冊	22,384	23,252	23,990	103.2	公開している商用データベースの点数	点	6	6	6	100.0	インターネット閲覧端末の利用回数(全館)	回	18,655	16,525	13,242	80.1	パソコン電源席の利用回数(全館)	回	1,126	1,187	1,423	119.9	紹介状の発行数(全館)	回	6	6	7	116.7	<p>①24年度は、特に東京都23区域の住宅地図を初めて購入した。 ②参加研修 研修名/参加人数 都立図書館主催レファレンス研修（法律情報・美術情報）/各1人、都・区市町村立図書館協力レファレンス担当者会/1人、国会図書館職員派遣「インターネットで使えるレファレンス研修」/19人</p>					
項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比（%）																																																		
レファレンス受付件数(全館)	件	4,335	3,585	3,211	89.6																																																		
レファレンス資料の受入冊数(全館)	冊	662	576	559	97.0																																																		
レファレンス資料の蔵書冊数(全館)	冊	22,384	23,252	23,990	103.2																																																		
公開している商用データベースの点数	点	6	6	6	100.0																																																		
インターネット閲覧端末の利用回数(全館)	回	18,655	16,525	13,242	80.1																																																		
パソコン電源席の利用回数(全館)	回	1,126	1,187	1,423	119.9																																																		
紹介状の発行数(全館)	回	6	6	7	116.7																																																		
自己評価意見	<p>①限られた予算の中で、古い情報では価値のなくなるものを更新するなど資料の充実に努めた。 ②職員研修では、初めて国立国会図書館から講師を招いての研修を実施した。 ③「しごと情報コーナー」の充実について、産業振興課と連携を図ることができた。 ④ホームページに掲載している「日野市についてよくある質問」について、更新の準備を進めた。</p> <p>*レファレンスの受付件数は、年々減少している。これは、窓口が多忙できちんと記録を残すことができなかったことが大きい。また、インターネットの普及により、職員に尋ねることなく、自力で調査を済ませている例が増えたとも考えられる。</p>																																																						
今後の課題	<p>1)レファレンスサービス全般のPR（近隣大学図書館の利用なども含む広報の充実） 2)レファレンスの記録をきちんと残し、活用する。 3)計画的な所蔵資料の充実 4)「しごと情報コーナー」の充実・商工会など他機関との連携 5)職員のスキルアップを図る（研修の充実） 6)「日野市についてよくある質問」の継続的な更新（25年度の早い段階で更新できるよう努力したい。）</p>																																																						
図書館協議会評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事業を今後も発展させてほしい。 ・研修の充実に力を入れているのを感じる。 ・市民はレファレンスサービスを認知しているか疑問。限られた資源を広く多くの市民に提供できるよう、もっとレファレンスサービス全般のPRが必要である。 ・ホームページで「日野市についてよくある質問」だけでなく一般的なレファレンス事例の紹介をして、こんな時に役立つというPRをしてはどうか。また、館報「ひろば」の『レファレンス室だより』をもっと頻繁に掲載できないか。 ・「ネットで検索」とは違う、専門職の腕の見せ所である、図書館員によるレファレンスサービスのあり方を根本的に考える必要がある。 ・レファレンス受付件数減少に未対応。 																																																						

図書館事業評価表 24年度

事業№ 10

取組事業	地域・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に伝えます 地域・行政資料（市政図書室）	事業開始年度	昭和
			40年度

事業の目的・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日野市に関する資料を収集・提供し、日野市の現況や歴史を調べられるようにする。図書だけでなく、雑誌記事、ピラ、チラシの網羅的収集を目指している。これを永久保存して将来の利用に備える。 2. 市民、議員、職員が市政を把握できるよう、国・都の関係法令、計画、制度など参考となる資料を収集・提供する。他自治体と比較できるよう、多摩地域等の自治体資料を収集する。 3. 上記に関する、レファレンスを行う。 4. 参考となる資料を作成する。…日野市関係の新聞記事切抜(昭和40年代から)・ファイリング他(事業成果参照) 5. 市刊行物の有償頒布
----------	---

24年度事業目標	<ol style="list-style-type: none"> ①「日野市在住・出身等著者リスト」の整備(重点事業) ②資料保管場所の確保(重点事業)
----------	--

事業の成果	項目	単位	22年度	23年度	24年度	前年度比(%)
		地域・行政資料の受入冊数	冊	3,669	2,805	2,661
	蔵書冊数	冊	64,291	66,994	69,632	104.0
	貸出冊数	冊	9,075	8,264	7,970	96.4
	『市政調査月報』(行政関係雑誌目次集)発行	回	12	12	12	100.0
	『資料の広場』(収集資料リスト)発行	回	12	12	12	100.0
	有償刊行物売上	円	396,490	325,600	499,490	153.4
	【市政図書室の利用実績】 (地域行政資料以外の資料の利用も含む)					
	貸出冊数	冊	16,192	18,775	17,704	94.3
	利用者数	人	6,327	6,862	6,546	95.4
	新規登録者数	人	60	44	68	154.5
	市政図書室におけるレファレンス件数					
	①日野市関係	件	1,380	980	951	97.0
	②多摩・東京関係	件	196	178	160	89.9
	③行政関係	件	171	135	96	71.1
	④その他	件	219	193	178	92.2

自己評価意見	<ol style="list-style-type: none"> ①「日野市在住・出身等著者リスト」の整備を進めた。 ②庁内倉庫の整理、資料の整理により、書架の改善を図ったが不十分だった。 <p>*レファレンス件数は、長期に減少傾向にある。 *地域・行政資料の受入、貸出とも減少傾向にある。庁内発行資料を漏れなく収集するため、さらなる周知を心がけてゆきたい。</p>
--------	---

今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> ①「日野市在住・出身等著者リスト」の整備を進めるために、「在住者」の基準を明確にする。 ②開架、書庫の資料を整理して、探しやすい書架に改善する。 <p>*庁内発行資料の漏れのない収集。 *日野市や他自治体等発行の電子的資料を収集し、利用できるようにする。 *公文書館機能の整備を図る。</p>
-------	---

図書館協議会 評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・資料作成、保管などの努力に感謝の思い。子供たちに自力で調べることの喜びを味わって欲しい。 ・地域行政資料の貸出冊数が多いのに驚いた。ちゃんと資料が蓄積されていると感じる。 ・市政図書室のサービスは全国的にも高い評価を得ている。どんなふうに使われているか、どんな時に役に立つのか、広く市民に知らせることが必要。 ・資料は増える一方なので、保管場所の確保が急務と思われる。 ・自己評価の所の理由追求が不十分。 ・公文書館機能の早急な整備を行う必要がある。
----------------	---

日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3に規定する、図書館の運営の状況に関する評価等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市立図書館（以下「図書館」という。）は、毎年1回、図書館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 図書館は、図書館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 図書館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 図書館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、図書館庶務整理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、図書館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

《図書館協議会委員名簿》

委員長	大杉 宏光	社会教育の関係者
副委員長	紺野 順子	学識経験者
委員	田中 ヒロ	社会教育の関係者
委員	阪田 幸子	学校教育の関係者
委員	中村 宏	学校教育の関係者
委員	赤川 千賀子	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	青木 笙子	公募による市民
委員	佐藤 恭子	公募による市民
委員	長谷川 俊彦	公募による市民

平成 25 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書

(平成 24 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 25 年 9 月

日野市立図書館

〒191-0053 東京都日野市豊田 2-49-2

電話 042-586-0584